



ひとつとして同じものはない



砂澤ビッキ

呼吸する文様

2020

9.5 sat → 10.11 sun

開館時間／(9月) 9:30～18:00、(10月) 9:30～16:15 (入館は30分前まで)

入館料／一般 300円・高校生 200円・小中学生 100円 (他割引あり)

休館日／毎週月曜日 (月曜日が祝日の場合は翌日)

主催／洞爺湖芸術館 協力／洞爺湖芸術館友の会

後援／北海道新聞社伊達支局、室蘭民報社、伊達信用金庫、公益財団法人道銀文化財団

洞爺湖芸術館
TOYAKO MUSEUM OF ART

〒049-5802 北海道洞爺湖町洞爺町96番地3
TEL&FAX : 0142-87-2525 WEB : <http://www.geijutukan.net/>



砂澤ビッキ

呼吸する文様

彫刻家・砂澤ビッキ（1931～1989）の創作の源流にはアイヌ文化があります。家族が冬に行うアイヌ彫刻の作業、アイヌ様式の住居で生活する祖父母など、彼の生活にはアイヌ文化が深く関係しており、その状況は彼が北海道を代表する彫刻家となる多くの作品の素地となっています。

そのビッキが手掛けたものの中で、アイヌ文様をデザイン化した「ビッキ文様」が彫られた作品が知られています。十字に交差する線や丸、三角などを組み合わせた複雑な線による独自の文様を生み出し、「ビッキ文様」作品は多くの人々を魅了しています。

本展では、当館でコレクションされていない「ビッキ文様」の作品群とそれらのスケッチなどを展示し、当館のコレクション群である大型の彫刻作品と共にビッキの多様な彫刻作品の創作についてご紹介します。



撮影：井上 浩二

砂澤ビッキ

北海道旭川市出身。初期には阿寒湖畔と鎌倉、その後札幌を制作の拠点としたが、1978年からは音威子府村箴島（おさしま）の小学校跡にアトリエを構え、亡くなるまでの十余年、精力的に木彫作品の制作を行った。

【略年譜】

- 1931年 旭川市に生まれる。本名は恒雄（ひさお）、ビッキは幼少時からの愛称。
- 1952年 上京、独学で絵画・彫刻を学ぶ。
- 1955年 モダンアート協会展（東京）入選。
- 1959年 北海道に戻り、以降東京を中心に個展を開催。
- 1983年 カナダに留学。
- 1989年 神奈川県立県民ホール「現代作家シリーズ」89 上野憲男・砂澤ビッキ・吹田文明展
1月22日のオープニングに病をおして出席。
1月25日 札幌にて没（享年57歳）



1



2



3



4



5

- 1《樹蟹箱》1980年 個人蔵／2《蟹》制作年不詳 個人蔵
- 3《獣達は線にむかって走る》1987年 個人蔵
- 4《樹丹頂鶴》1981年／5《丹頂鶴》制作年不詳 個人蔵

《関連イベント》

ワークショップ「ビッキ文様でコースターづくり」
ビッキ文様の制作過程を追体験するワークショップを開催します



- ◎監修：砂澤 凉子 氏
- ◎日時：9月19日（土）13：00～
- ◎定員：7名
- ◎対象：小学5年生～ ※彫刻刀を使用します
- ◎参加費：500円 ※入館料が別途必要です
- ◎申込：電話（0142-87-2525）

洞爺湖芸術館
TOYAKO MUSEUM OF ART

〒049-5802 虻田郡洞爺湖町洞爺町96番地3
TEL&FAX：0142-87-2525 WEB：http://www.geijutukan.net/

